

ペトロ前書序言

本書の受取人 一章一節に言うように小アジアに属する五カ州に住む信徒である。この諸地方に布教したのはパウロであるが、ペトロもまた布教したこともある。これらの教会の信者の多くは異教から歸依きえした者であつたが、ユデア教の信者であつた者もまたあつたことだろう。

本書をしたためた機会および目的 これについては本文によつて知られる。すなわち小アジアの信者は公然とした迫害こそ受けなかつたが、異教信者やユデア教信者のために種々の苦難に会い、キリスト教への改宗者は、ほとんど棄教者のように見なされて、自分では熱心に徳を修めても、かえつていろいろの悪口の種となつて世間の憎悪を増すばかりなので、信者は、ともすると心が乱れて落胆するに至つた。それでペトロは彼らを慰めてその信仰を固めるために本書をしたため、困苦は信者の本分であることと、これによつて将来大いなる光栄をもたらしこととを説き、また迫害が実に喜ぶべき恵みであることを述べ、同時にどんなことがあつても社会とおのれに対して義務をつくさねばならぬことを勧めたのである。

本書の題目および区分 パウロの書簡と違つて、すばらしい教理的な箇条や論難的な箇条は本書の中には見あたらない。ちょうど父が子に対してなす教訓のように道義的実用的な事がらを述べるだけで組織立った書き方ではないが、区分すると短い冒頭（一章一、二節）のち、およそ三種の教訓を与えている。すなわち、まず感謝をもつて始まり、第一には、キリストに贖われた信

者の特典と、信者の要する聖徳とを述べ（一章三―十二節）、神に選ばれた者としてなさねばならぬこと、また希望せねばならぬこととを説き（一章十三節―二章十節）、第二には、世間における信者の一般的義務と特別な義務とをかかげる。すなわち国民として、奴隸として、夫婦として互いになさねばならぬこと、また世間に対してなすべきことをキリストの例をもって教え、また罪を防ぐよう努めることを勧める（二章十一節―四章六節）。第三には、キリスト信者の組合の生活に関することを述べ、特に靈的賜ものを利用すること（四章七節―十一節）、困難に際しては忠実に神に依頼すべきこと（四章十二―十九節）、牧者と信者との相互の義務を説き（五章一―五節）、次に少し忠告を与えて（五章五―十一節）、終わりに簡単な末文をもって結んでいる（五章十二―十四節）。

本書をしたためた場所および年代 本書の五章十三節には、バビロンでしたためたとあるが、これは、ほんとうのバビロンではないだろう。すなわちロマの変名で、本書はロマにおいてしたためられたようである。年代については種々の説があるが、紀元六三年あるいは六四年であろうか。そうであるなら、パウロがすでに監獄から出てイスパニアまたは東方に行ったところで、まだネロ皇帝の迫害は始まっていないが、そのきざしは、はやあつた時である。

使徒聖ペトロの先の書簡

冒頭

1 **第一編** 挨拶 1 イエズス・キリストの使徒たるペトロ、ポント、ガラチア、カパドシア〔小〕
 2 アジアおよびピチニアに離散して寄留きりゆうせる人々、2 父にてまします神の予知に従いて、〔聖〕靈
 によりて聖とせられ、かつ服従し、イエズス・キリストの御血を注がれたために選ばれたる人々
 に〔書簡を送る〕。願わくは恩寵と平安と汝らに加わらんことを。

第一編 キリスト信徒の特典およびその要する聖徳

第一項 信徒の賜わりし恵みを神に感謝す

3 救いが信徒に与うる喜び 3 祝すべきかな、わが主イエズス・キリストの父にてまします神、
 けだしその大いなるあわれみに従いて、イエズスの死者のうちよりの復活をもって、われらを新
 4 たに生まれしめて生ける希望をいだかしめ、4 天において汝らに備わりたる屈せず汚れざる、しか
 5 もしほまざる世継ぎを得させんとし給う。5 汝らは神の能力により終わりの日に現わるべく備わ

りたる救^{たす}霊を得んために信仰をもつて守らるるものなり。

6 困難に会うき喜ぶべし 6 これによりて、たといしばらくは種々の試みに悩まさるべきも、汝らは喜びに堪えざるべし。7 けだし汝らが信仰の試みらるるは、金が火をもつてためさるるよりもはるかに尊きことにして、イエズス・キリストの公現の時、^{ほまれ}誉と栄えと尊みとを得べき者として認められんためなり。8 汝らはイエズス・キリストを見ざりしも、これを愛し奉り、今もなお見ずしてこれを信じ奉り、信じ奉りてしかも光栄を帯びたる言いがたき喜びに堪えざるならん。

9 9 それは汝らの信仰の目的たる魂の救^{たす}霊を得なければなり。

10 救いの尊きこと 10 この救^{たす}霊につきては、汝らにおける将来の恩寵のことを予言せし予言者たち、せんさくしてこれを探求せり。11 すなわちキリストの霊は彼らにましまして、キリストにおける苦難とそののちの光栄とを、あらかじめ告げ給いしかば、いつのころいかなる時を示し給えるぞと探求したりしに、12 その伝うるところは、彼ら自らのためにあらずして汝らのためなりとの黙示を得たり。その伝うるところとは、天より遣わされ給いし聖霊によりて汝らに福音を述べし人々より、汝らが今すでに告げられたるところにして、天使たちもまた、これをかんがみるところを欲せるなり。

第二項 神の恵みに応じて生活すべし

13 聖なる生活を要す 13 このゆえに汝ら心に帯^{おび}して節制し、イエズス・キリストの公現の時、汝

14 らに賜わる恩寵を欠くるところなく希望し、14 従順なる子どものごとく最初の不知の望みに従う
 15 ことなく、15 汝らを召し給いし聖なるものにかたどりて、すべての行状において汝らもまた聖と
 16 なれ。16 そは書きしるして、「われは聖なるにより、汝らも聖となるべし」とあればなり。
 17 神およびキリストの恵みを要求す 17 人にえとあることなく、おのおのの業によりて審判し給
 18 うものを父と呼び奉るならば、恐れをもって汝らが世に住める時を過ごせ。18 これ汝らが先祖伝
 19 来のむなしき行状より贖われしは、金銀のごとき破るべきものによらずして、19 無欠無垢の小羊の
 20 ごときキリストの尊き御血によれることを知ればなり。20 彼は世界開闢以前より予知せられ給い
 21 たりしかど、彼によりて神を信仰せる汝らのために世の末に現われ給いたるものにして、21 神が
 これを死者のうちより復活せしめ、これに光栄を賜いしは、汝らの信仰と希望とを神によらしめ
 給わんとてなり。

22 相愛をうながす 22 汝ら偽りなき兄弟的相愛を生ぜしめんがために、真理に服従することによ
 23 りて魂を清め、ひとしお深く心より相愛せよ。23 汝らが新たに生まれたるは、くさるべき種によ
 24 らず、くさるべからざる種により生きて永遠に存する神の御言葉によれり。24 けだし、いっさい
 25 の肉身は草のごとく、その栄えは草の花のごとし、草は枯れその花は落つれども、25 主の御言葉
 は永遠に存す。汝らに福音となりし言葉は、すなわちこれなり。

①ラテン訳では聖とならん。②レビ記11・44、19・2、20・7 ③ラテン訳では純粹なる心より。④あるいは生きて
 永遠に存し給う神の御言葉。

1 **第二章** 聖徳を励むべし 1 されど汝ら、すべての悪心とすべての詐欺と表裏とねたみと、すべ

2 てのそしりとおきて、2 あたかも生まれたてのみどり児のごとく、まがいなき靈的の乳をこいねがえ、これ、これによりて成長して救霊に至らんためなり。

3 キリストは聖徳のいしずえ、3 汝ら、もし主の善良にましますことを味わいたらんには、よろしくしかすべし。4 主は生ける石にして、人よりは捨てられしも神より選まれて尊くせられし石にてましますれば、汝らこれに近づき奉りて、5 おのれもまた生ける石のごとくその上に立てられて靈的家屋となり、聖なる司祭衆となり、イエズス・キリストをもって神のみ心にかなえる靈的犠牲を献ぐる者となれ。

6 旧約を引証す 6 されば聖書にのたまわく、「見よ、われ選まれたる隅の上石をシオンに置かんとす、これを信ずる人は、はずかしめられじ」と。7 ゆえに信じたる汝らには尊榮あれども、8 信ぜざる人々にとりては建築者が捨てたる石は隅石となり、8 つまづく石、突き当たる岩となれり、これ言葉を信ぜずして、つまづくよう置かれたればなり。

9 信徒の特典 9 されど汝らは選抜の人種、王的司祭衆、聖なる人民、もうけられたる国民なり。10 これ汝らが、おのれをそのたえなる光に暗闇より呼び給えるものの徳を告げんためにして、10 かつては民たらざりし者、今は神の民となり、あわれみを得ざりし者、今はあわれみを得たる者となれり。

第二編 世間における信徒およびその主なる義務

第一項 神のおぼしめしによれる社会上の制度に服すべし

11 行状ぎょうじょうをもつて異邦人を感化すべし 11 至愛なる者よ、魂に反して戦う肉欲を去らんことを、寄
 12 留人りゆうじんと旅人りよじんとに対するごとく、われ汝らにこいねがう。 12 汝ら異邦人の間にありて良き行状を守
 れ、これ彼らをして汝らを悪人としてそしるところにおいても善業によりて汝らを重んぜしめ、
 訪問せらるる日に神に光栄を帰し奉らしめんためなり。

13 主権者に対する義務 13 されば汝ら主のために、すべて人の制定したるものに服せよ、すなわ
 14 ち主権者として帝王に服し、 14 また悪人を罰して善人を賞せんために帝王より遣わされたるもの
 15 として、すべての官吏かんりに服せよ。 15 けだし汝らが善を行ないて愚かなる人々の不知ふちを黙せしむる
 16 は神のおぼしめしなり。 16 汝ら自由の身なるがごとくにして自由を悪のおおいとなすことなく、
 17 神の奴隷どがいたるもののごとくにせよ。 17 すべての人を敬い、兄弟たちを愛し、神を恐れ奉り、帝王
 を尊べ。

18 奴隷の義務 18 奴隷たる者よ、万事恐れをもって汝らの主人に従え、ただに善良温和なる者に
 19 のみならず、情なき者にもまたしかせよ。 19 神を意識せるがために不義の苦しみを受けて悲しみ
 20 に堪うるこそみ心4にかなえることなれ。 20 罪を犯して打たるるを忍べばとて何の功こうかあらん、善
 をなしつつ忍びてこれに堪うるこそ神のみ心4にかなうことなれ。

21 キリストの模範 21 けだし汝らの召されたるはこれがためなり、そはキリストがわれらのため

22 に苦しみ給いしも例を汝らに残して御あ、とを慕わしめ給わんためなればなり。22 彼は罪を犯し給
 23 いしことなく、また御口に偽りありしことなし。23 彼はののしられてののしらず、苦しめられて
 24 おどさず、ただ義をもって審判し給うものに任せ給いしなり。24 彼御自ら木の上にてわれらの罪
 を身に負い給いしは、これ、われらをして罪を離れ義に生きしめんためにして、汝らはその青ざ
 25 めたる傷あとによりていやされたるなり。25 そは汝ら、かつては迷える羊のごとくなりしかども、
 今は魂の牧者、監督者にてましますものに立ち帰り奉りたればなり。

①詩編117・22、マテオ21・42、使徒行録4・11 ②イザヤ28・16 ③審判を受ける時、あるいは自ら改心する時のこと
 ④原文には恩寵。⑤すなわち神。⑥ラテン訳では不義におのれを裁判する者に身を渡し。

第三章 妻の義務

1 かくのごとく、妻たる者もまた、おのが夫に服すべし、これ夫がたとい御
 2 言葉²を信ぜざるも、妻の行状^{きやうじやう}によりて無言のうち¹に、2 汝らの畏敬にある操^{みさお}の行状をかながみて、
 3 もうけられんためなり。3 その飾りはうわべのちぢらし髪、金の飾り環、身に着けたる衣服にあ
 4 らずして、4 心のうちに隠れたる人、すなわち貞淑^{ていしゆく}、謹慎^{きんしん}なる精神の変わらざるにあるべし、こ
 5 れこそは神のみ前に価高きものなれ。5 けだし、いにしえの聖女たちも神を希望し奉りて、おの
 6 が夫に服しつつかくのごとく身を飾りたりしが、6 そのごとくサラは「その夫」アブラハムを主
 と呼びてこれに従いいたり。汝らは彼が娘として善をなし、何の変動をも恐れざるなり。
 7 夫の義務 7 夫たる者よ、同じく知識に従いて同居し、女をわれよりも弱き器^{うつわ}として、しかも
 相ともに生命の恩寵を継ぐ者としてこれを尊重し、汝らの祈りを妨げられざるようにせよ。⁴

第二項 信徒一般に対する教訓

8 **相愛**、**忍耐**、**平和** 8 終わりに「言わん」、汝らみな心を同じゅうして相いたわり、兄弟を愛し、慈悲謙遜⁶にして、9 悪をもって悪に報いず、ののしりをもってののしりに報いず、かえって祝福せよ。これ世継ぎとして祝福を得んため、これに召されたる汝らなればなり。10 けだし生命を愛して良き日を見んと欲する人は、その舌^{した}をして悪を避けしめ、そのくちびる^{くちびる}を偽りを語らず、11 悪に遠ざかりて善をなし、平和を求めてこれを追うべきなり。12 これ主の御目は義人たちの上を顧み、御耳は彼らの祈りに傾き、御顔は悪をなす人々に怒り給えばなり。

14-13 **人を感化すべし** 13 そもそも汝ら、もし善に熱心ならば、たれか汝らに害をなすべき。14 また、たとい義のために苦しめらるるも幸いなり、人々のおどしを恐れず、心を騒がさず、15 心のうちに主キリストを聖なるものとせよ。常に汝らにあるところの希望のゆえんにつきて、問う人ごとに満足を与うる準備あれよ、16 ただし良き良心を有して柔和と畏敬^{おそ}とをもって答弁せよ。これキリストにおける汝らの良きふるまいを、ざん言する人々の、そのそしるところにつきて自ら恥じんためなり。17 けだし神のおぼしめしならば、善をなして苦しむは悪をなして苦しむにまされり。

18 **キリストの模範** 18 すなわちキリストも、ひとたびわれらの罪のために、すなわち義人として不義者のために死し給いしが、これわれらを神に獻げ給わんためにして、肉にては殺され給いかど靈にては生かされ給い、19 その靈は獄^{ごく}にありし靈に至りて救いを述べ伝え給えり。20 これら

の者は、昔ノエの時代に神の忍耐の待ちおりしに、箱舟の造らるる間服せざりし者なりしが、この箱舟において水より救われし者わずかに八人なりき。21これに前表せられたる洗礼こそ、今汝らをも救えるなれ。これ肉身の汚れを去るゆえにあらずして、イエズス・キリストのご復活によりて良き良心が神になし奉る約束のゆえなり。22彼は（われらに永遠の生命を得しめんために死を滅ぼして）天に行き給い神の右にましまして、天使、権勢、能力はこれに服せしめられたるなり。

① 奴隷について示したように。② 福音の教への意。③ 外形でない精神をさす。④ 不義を行なつて。⑤ ラテン訳では兄弟の縁。⑥ ラテン訳では温和謙遜。⑦ 冥府（よみ）。⑧ 原文には魂。⑨ 創世記6・8～8。⑩ あるいは良き良心を神に願ひ奉るゆえなり。⑪ あるいは権天使、能天使。

第四章 苦しみの効果の原理 1 キリストすでに肉身において苦しみ給いたれば、汝らもまた同

じ心得をもつて武器とせよ。けだし肉身に苦しみたる人は、これ罪をやめたる者にして、2 もはや人の欲に従わず、神のおぼしめしに従いて肉体に残れる時を過ごさんとする者なり。

3 その応用 3 けだし、われら既往においては異邦人の望みを全うして、淫乱、情欲、酔狂、暴食、暴飲およびよこしまなる偶像崇拜に生活せしことにて足れり。4 彼らは汝らが同様なる放蕩の極みに走らざるを怪しみてこれをのしれども、5 今すでに生者と死者とを審判せんとして待ち設け給えるものに報告し奉るべし。6 けだし福音が死者にも述べ伝えられしはこれがため、すなわち死者が人の通例に従いて、肉身は審判を受けたりとも霊は神によりて生きんためなり。

第三編 キリスト諸教会の内面の生活に関する勧め

第一項 現に守るべき行状

7 審判の接近が要求すること 7 万物の終わりはすでに近づけり、されば汝ら慎しみ祈りつつ警
 9-8 戒せよ。8 何ごとよりも先に互いに厚き愛⁴を有せよ、愛は多くの罪をおおえばなり。9 苦情なく
 10 相接待し、10 おのおの受けたる賜ものに⁵応じて神のさまざまなる恩寵の良き分配者として互いに
 11 これを供給せよ。11 すなわち人語る時は神の御言葉を語るがごとし、務むる時は神の賜える能力
 をもってするがごとくすべし。これ神がいつさいにおいてイエズス・キリストをもつて尊ばれ給
 わんためにして、光栄と主権と世々これにあるなり、アメン。

12 キリストの苦難にあずかる道 12 至愛なる者よ、汝らを試みんとする火のごとき苦しみを、新¹²
 奇なるものの到来せるがごとくに怪しむなかれ、13 かえってキリストの苦しみにあずかる者とし
 て喜べ、これその光栄の現われん時、汝らもまた喜びに堪えざらんためなり。

14 苦難の有益なる条件 14 汝ら、もしキリストのみ名のために侮辱⁶せらるることあらば幸いなる
 15 べし、そは光栄の霊⁶すなわち神の霊、汝らの上に留まり給えばなり。15 されど、あるいは人殺し、
 あるいは盗人⁷、あるいは悪漢⁷、あるいは他人のことに立ち入る者として苦しめらるる者は、汝ら
 16 のうちに一人もこれあるべからず。16 もしキリスト信者として苦しめられなば恥ずることなく、
 17 かえって、この名に対して神に光栄を帰し奉るべし。17 けだし時は来れり、審判は神の家⁸より始
 18 まらんとす、もしわれらより始まらば、神の福音を信ぜざる人々の果⁸はいかになるべき。18 もし

19 また義人にして辛く救われなば、敬虔ならざる者と罪人とはいづくにか立つべき。19 されば神のおぼしめしに従いて苦しむ人々は善をなして、真実にてまします造物主にその魂を頼み奉るべきなり。

①すなわち神のために。②いわゆる余命。③原文には、に歩みたりし。④ラテン訳では絶え間なき。⑤ラテン訳では恩寵。⑥ラテン訳では尊貴と光榮との靈。⑦ラテン訳では他人のものをむさぼる。⑧信者の意。

第二項 牧者および信徒に関する特別の勧告

1 **第五章 牧者の義務** 1 汝らのうちの長老には、われもともに長老として、またキリストの苦難

2 の証人として、将来現わるべき光榮にあずかる者としてこいねがう。2 汝らのうちにあるところの神の羊の群を牧せよ、これを監督するに、しいられてせずして喜びて神の御ためにし、恥ずか
3 しき利のためにせずして特志をもって行ない、3 託せられたる人々を压制せずして心より群の模
4 範となるべし。4 しからば大牧者の現われ給わん時、汝らしほまざる光榮の冠を得べし。

5 **信徒の義務** 5 若き者よ、汝らもまた長老に服せよ、みな互いに謙遜を帯びよ、神は傲慢なる
6 者に逆らいて謙遜なる者に恩寵を賜えばなり。6 されば汝ら、神の全能なる御手の下にへりくだ
7 れ、しかせば時至りて彼汝らを高め給わん。7 思いわずらうところをことごとく神にゆだね奉れ、
神は汝らのためにおもんばかり給えばなり。

8 **節制と警戒との必要** 8 汝ら節制して警戒せよ、そは汝らの仇たる悪魔は、ほゆるししのごと
9 く食いつくすべきものを探しつつ行き巡ればなり、9 汝らこの世にある兄弟たちの同じく苦しめ

10 ることを知りて、信仰に心を固めてこれに抵抗せよ。10 いっさいの恩寵の神はキリスト・イエズスによりて、その永遠の光栄に汝ら呼び給いしものなれば、いささか苦しみたる上は、御自ら
11 完全にし固うし強からしめ給わん、11 光栄と主権と世々これにあり、アメン。

結 末

12 **本書の目的** 12 忠信なる兄弟シルヴァノをもって、わが汝らに書き送りしところは、われ思うに簡単なり。これ、この神の恩寵の誠なることを勧告し、かつ保証するものにして、汝らよろしくこれに立つべし³。

13 **伝言** 13 汝らとともに選まれてバビロンにある教会、およびわが子マルコ^{*}は、汝らによろしく
14 と言えり。14 愛の接吻⁴をもって互いによろしく伝えよ。

祝禱 願わくは、キリストにある汝ら一同に平安⁵あらんことを、アメン。

①箴言3・34、ヤコボ書4・6 ②ラテン訳では訪問の時。③ラテン訳では立てるなり。④ラテン訳では聖なる。⑤ラテン訳では恩寵。